

# 後藤三雄町長 退任 16年を振り返る



落成式でのテープカット  
菊陽町防災センター落成

熊本地震被災者をお見舞い

区画整理で住みよいまちに

ひかりのもり公園の人気遊具

建て替えた菊陽中部小

祝・人口4万人突破

姿を現した(仮称)総合体育館

第二原水工業団地で大臣に説明

年	月	主なできごと
平成18(2006)	10	第14代菊陽町長就任(第17代まで4期)
平成19(2007)	6	子ども医療費を小学3年生まで無償化(高校3年生まで順次拡大)
平成20(2008)	7	人口3万5千人突破
平成21(2009)	3	町営原水団地建て替え(以降光団地、古閑原団地)
平成24(2012)	7	九州北部豪雨により白川沿岸を中心に被害
平成25(2013)	8	菊陽中部小学校全面建て替え完了
平成27(2015)	10	巡回バス「キャロッピー号」再編
平成28(2016)	3	西部支所・光の森町民センター開設
平成28(2016)	4	人口4万人突破
平成28(2016)	4	もみじ保育園が民営化
平成30(2018)	4	熊本地震発生(14日震度5強、16日震度6弱)
令和元(2019)	6	大津警察署光の森交番設置
令和元(2019)	4	武蔵ヶ丘中学校運動場拡張
令和2(2020)	1	乗合タクシー運行開始
令和2(2020)	4	光の森防災広場供用開始
令和3(2021)	4	菊陽空港線延伸事業着手
令和3(2021)	11	防災センター完成、使用開始
令和4(2022)	2	TSMCが第2原水工業団地への進出を発表
令和4(2022)	3	菊陽第二区画整理事業完了、換地処分
令和4(2022)	8	武蔵ヶ丘北小学校敷地および運動場拡張
令和4(2022)	10	防災機能を備えた(仮称)総合体育館上棟式
令和4(2022)	10	任期満了により菊陽町長退任



光の森防災広場



初民営化のもみじ保育園



1期日就任の日

- ### 主な取り組み
- 子育て支援充実のまち**
    - 保育所民営化と待機児童の解消
    - 学童保育の充実
    - 小中学校の充実
  - 健康長寿・福祉充実のまち**
    - 総合体育館の建設開始
    - 「さくよう健康倶楽部」の実施
    - 地域密着型特別養護老人ホームの開設
  - 豊かな生活と成長を続けるまち**
    - 菊陽空港線の延伸に着手
    - 県道大津植木線多車線化の決定
    - 第二原水工業団地の整備 (TSMC進出決定)
  - 住みやすい安全・安心なまち**
    - 西部支所(光の森町民センター)開設
    - 光の森交番新設
    - 第二土地区画整理事業の完了
    - 防災広場、防災センターの完成
    - 原水駅前周辺整備

## 退任に寄せて

このたび、10月13日の任期満了に伴い退任することにいたしました。平成18年に初当選して以来4期16年、私は「人を大切に、誠心誠意尽くすこと」を信条に、町民の皆さまの負託に応えられよう、全力で町政に取り組んでまいりました。永年にわたりご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

## 生活都市の実現に向けて

町の人口は、平成18年就任当時の33,107人からさらに1万人以上増加し、本年8月末現在で43,641人となり、最も勢いのある町と言われますようになりました。

振り返りますと、私は昭和43年に菊陽村役場に入庁して以来、54年にわたり行政に携わってまいりました。職員時代の38年間は歴代の村長・町長のもとで、昭和44年に菊陽村が菊陽町となり、県営武蔵ヶ丘団地の建設、小中学校の新設、光の森の開発と、人口が増加し続け、町が発展する姿を見ながら働いてきました。

町長に就任してからは、この良き流れを継続するために、町が昭和56

も取り組みました。企業立地協定は12社を数え、第二原水工業団地の整備は、国の経済安全保障を担うTSMCの進出を呼び込みました。菊陽町の未来の可能性を大きく広げるものになったと確信しています。光の森町民センターを西部支所と子育てや生涯スポーツなどの複合施設として整備し、また、菊陽第二土地区画整理事業により町の中央部に整った町並みが広がり、新たな商業施設も進出しました。

他にも、新型コロナウイルス対策では、ワクチン接種と経済対策の両輪で取り組みを進め、行政のデジタル化という新たな取り組みも始めました。

## 更なる発展へ

TSMCの進出で、これから町の姿は大きく変わっていくことになるでしょう。町を挙げて歓迎ムードを醸成し、この工場を受け入れたいと考えています。

そのための対策として、特に急務なのが渋滞対策です。熊本県と共同で菊陽空港線の延伸に着手し、町が長年要望してきた県道大津植木線の多車線化が決定したことで、工業団

年以降一貫して掲げてきた町の将来像「生活都市」の実現を引き継ぎ、「子どもたちには夢、若者には希望、働く人には生きがい、高齢者には安らぎのあるまち」づくりをすすめてきました。

子育て支援を充実させるため、子ども医療費の高校3年生までの無償化や、学童保育施設の充実など働きながら子育てしやすい環境の実現に取り組みしました。人口増加への対応として、保育所の民営化などによる待機児童の解消、小中学校の増築や敷地の拡張をしました。また、健康で長生きできるように、健康づくりのためのジムの開設や、さくよう健康倶楽部などに取り組みしました。

平成24年の豪雨や平成28年熊本地震を経験し、安全・安心なまちの実現にも力を入れ、防災施設整備や防災士育成など、ハードソフト両面に対応してきました。中でも、防災機能を備えた(仮称)総合体育館の整備は、長年の悲願でした。来年初以降、非常時は町民を守る避難所として、平時はスポーツや健康づくりの場として、多くの町民に利用されることを願っています。

豊かな生活と住みよいまちにするため、企業誘致やインフラの整備に地への通勤渋滞対策には一定の道筋をつけることができました。町内の外国の人が地域で共に生活しやすいように、多文化共生の取り組みも進めています。また、台湾のことももっと身近に感じていただくために、自治体間の交流も必要と考えています。他にも、新たな住まいの場を確保する新たな土地区画整理事業や、新駅設置の構想が進むことで、本町が更なる発展を遂げていくことに大きく期待しています。

## 結び

今後は、これから選ばれる新町長に、菊陽町政のかじ取りをお願いすることになります。連綿と続いてきた本町の良き流れを持続し、更なる発展を遂げられるよう願っています。これまでお寄せいただいた町民の皆さまのご厚情に心から感謝を申し上げます。併せて町民の皆さまのご多幸をお祈りいたしまして、退任のあいさつとします。

長い間、本当にありがとうございました。

令和四年十月  
菊陽町長 後藤三雄